

ものづくり寄席



平成27年7月～3月

「ものづくり寄席」とは、製造業に関する第一線の研究成果や、製品開発・生産といった現場の最先端の話題が演目として並ぶ、一風変わった寄席

そんな、ものづくり経営に関する研究やものづくり現場の話を、気軽に聞ける寄席が丸の内にあるのを、ご存知ですか？

寄席は、東京大学ものづくり経営研究センターの教員を中心に、代わる代わる出演

「なんや、大学の先生たちの小難しい話か。かなわんな～」

そんな心配はご無用。あくまでも「寄席」。お客さんはみんなフリードリンク片手に、ときどき笑いながら聞いています

ものづくり寄席は、火曜日の夕方に開演。仕事帰りに、お気に入りのカフェにちょっと寄る気持ちで、それとも、出張ついでに一席、というのも、よろしいのでは

演目表

1月	9日(金)	藤本 隆宏	ものづくり経営研究センターの発展・変転・論点ー開かれたものづくりのすすめ
	13日(大)	立本 博文	プラットフォームと国際分業およびコア技術の収益化
	20日(大)	稲水 伸行	研究開発におけるコミュニケーションの真
	27日(大)	富田 純一	製造業におけるソリューション戦略ー顧客対応のジレンマからの脱却
2月	3日(大)	善本 哲夫	新興国市場とオーバースペックシンドローム
	10日(大)	中川 功一	優良部品メーカーにおける製品システムの統合の戦略
	17日(大)	中野 剛治	新規事業をどのように創出していけばよいのか
	24日(大)	桑嶋 健一	日本型プロセス産業ーアーキテクチャと製品開発の視点
3月	3日(大)	貴志 奈央子	R&Dの方向性を決定づける要因とは何かー半導体デバイスを対象として
	10日(大)	呉 在 恒	アジア成長市場の獲得をめぐる自動車メーカー間能力構築競争
	17日(大)	高橋 伸夫	育てる経営と経営的スケール観

東京大学グローバルCOEプログラム ものづくり経営研究センター アジア・ハブ

- ・ 東京大学グローバルCOEプログラム「ものづくり経営研究センター アジア・ハブ」(MMRC-AH)は21世紀COEプログラム「ものづくり経営研究センター」(MMRC)の第二期目として設立されました
- ・ MMRCは、既存の産業分類や製造業・非製造業の枠を超えた「開かれたものづくり」概念にもとづき、現場発のものづくり経営論、戦略論、産業論等の研究拠点として活動してきました
- ・ MMRC-AHは、MMRCで生まれたものづくりに関する知見をアジアのものづくり経営学に応用することにより、この分野で世界をリードする教育・研究拠点となることを目指しています

主催：東京大学グローバルCOE
ものづくり経営研究センター
(東京大学大学院経済学研究科)

共催：特定非営利活動法人
グローバルビジネスリサーチセンター
(GBRC)

後援：三菱地所株式会社

ものづくり寄席事務局：
東京都文京区本郷3-34-3
本郷第一ビル8階

TEL：03-5842-5501 FAX：03-5842-5536
URL：<http://merc.e.u-tokyo.ac.jp/mmrc/>
E-mail：yose@mmrc.e.u-tokyo.ac.jp

ものづくり寄席は、当日売りしかございません
お時間が出来たとき、ぶらりと気軽に立ち寄ってみてください
フリードリンク付きで、ものづくり経営の小咄が楽しめます
人気演目では、立ち見もご愛敬

木戸銭(入場料):1,000円(税込)



睦月

9日(金) 藤本 隆宏

東京大学大学院経済学研究科
教授
ものづくり経営研究センター所長

ものづくり経営研究センターの
発展・変転・論点
—開かれたものづくりのすすめ—

2003年に始まった『東京大学ものづくり経営研究センター』は、さまざまな変転流転にもかかわらず、しぶとく続き、それなりに発展もしている。世界経済は騒然と来たが、こういふときこそ、良い設計良い流れで価値を生み出す『開かれたものづくり』の発想が頼りになる、と我々は考える。新たな論点も出てきた。5年の総括と次への論点をざっくりお話しする。

13日(大) 立本 博文

立命館大学インベーションリ
サーチセンター客員研究員

プラットフォームと国際分業
およびコア技術の収益化

1990年代、パソコン、携帯電話、DVD機器などデジタル製品分野で新しい国際分業が生まれていった。そして、このオープンビジネス環境下でプラットフォームが重要な役割を果たしていった。プラットフォームは、新興国の産業の活性化につながるだけでなく、プラットフォーム提供者である先進国の収益化にも貢献した。このメカニズムを明らかにし、我が国産業がオープン環境下でプラットフォームから収益を得る仕組みを考察する。

20日(大) 稲水 伸行

ものづくり経営研究センター
特任研究員

研究開発における
コミュニケーションの罫

スリーエムの「ポストイット」の開発事例のように研究開発の成果は偶然の賜だと言える。そうならば、できるだけオープンにコミュニケーションし、多様なアイデアを探れるようにした方がよいと考えがちである。しかし、本当にそうだとはい切れるだろうか？ 失速し早く成果を求められる状況ではどうだろうか？ やりたいことが多くて目移りする状況ではどうだろうか？ その答えが「コミュニケーションの罫」モデルによって示される。

27日(大) 富田 純一

ものづくり経営研究センター
特任研究員
東洋大学経営学部専任講師

製造業におけるソリューション戦略
—顧客対応のジレンマからの脱却—

近年、製造業においてもソリューションが注目を集めている。しかし、ソリューションには、顧客の要望に応えられたとしても、売上が伸び悩む、コストが嵩むなどのジレンマが付きまとう。ではいかに脱却していけばよいのか。本演目ではB to Bビジネスを中心に考えてみたい。

3日(大) 善本 哲夫

ものづくり経営研究センター
特任研究員
立命館大学経営学研究所准教授

新興国市場とオーバースペック
シンドローム

新興国市場に投入される日系企業製品は、本当に顧客ニーズから乖離した過剰品質・設計なのか？ 日系企業製品の未来を悲観する声もあるけれど、それだけじゃ何も生まれない。現地フィールドワークをもとに、ポジティブに考えるネタをお話したいと思います。

10日(大) 中川 功一

ものづくり経営研究センター
特任研究員
駒澤大学経営学部専任講師

優良部品メーカーにみる製品
システム統合の戦略

多くの領域で、世界トップの地位を誇る日本の部品産業。彼らには、自社の事業領域を超え、完成品全体のシステム統合にまで深く携わっていき、共通した特徴がある。この「製品システム統合の戦略」について、TDK、三菱化学などの事例から説明していく。

17日(大) 中野 剛治

東洋大学経営学部専任
講師

新規事業をどのように創出して
いけばいいのか

新規事業の創出は、ベンチャー企業だけでなく既存産業でも製造業、流通・サービス業といった幅広い産業において課題となっています。どのようにすれば持続的な成長を続けることができるような新規事業の立ち上げを行うことができるのか、その際の問題点を提示しながら、新規事業の立ち上げに必要な条件を提示していきます。

24日(大) 桑嶋 健一

筑波大学大学院
ビジネス科学研究科准教授

日本型プロセス産業
—アーキテクチャと
製品開発の視点—

戦後日本では、組立産業に比べてプロセス産業は強くないと言われることが多かった。それは本当だろうか？ 日本企業の得意技が生きるプロセス製品・産業はないのだろうか？ 『ものづくり寄席』でもお馴染みのアーキテクチャと製品開発の視点から探ってみたい。

如月

弥生

3日(大) 貴志 奈央子

明治学院大学経営学部
専任講師

R&Dの方向性を決定づける要因
とは何か
—半導体デバイスを対象として—

技術の進化が非常に速い製品の場合、R&Dの方向性は何を基準として決定されるのだろうか。米国特許を用いた分析から、ある技術に対する業界の評価がR&Dの意思決定に与える影響について検討を行う。

10日(大) 呉 在 恒

ものづくり経営研究センター
特任研究員
明治大学国際日本学部准教授

アジア成長市場の獲得をめぐる
自動車メーカー間能力構築競争

自動車メーカーはユーザーや販売店とのインタフェースをどのように設計しているのか。アジア成長市場(中国やインドなど)の獲得をめぐる自動車メーカー間能力構築競争の現状を、日本や韓国の自動車各社の販売システムに焦点を置いてお話しします。

17日(大) 高橋 伸夫

東京大学大学院経済学研究科
教授

育てる経営と経営的スケール観

「育てる経営」という思想を実践してきた企業が、長い時間をかけて、「日本型年功制」というシステムを体現するようになってきた。短期的に経済環境がどのように激しく変化しようとも、常に経営的スケール観を持ち続け、原点に立ち返りながら、従業員の生活を守り、従業員の働きに対しては次の仕事の内容と面白さで報いるようなシステム「日本型年功制」をより洗練された形で再構築して欲しい。

2009年 1月～3月開催要項
開催時間 19:00～20:30(受付開始 18:30)
会場 三菱ビル コンファレンススクエア
エムプラス 1階・10階(当日掲示)
千代田区丸の内2-5-2

(JR東京駅丸の内南口から徒歩約3分)

満員の際には 入場をお断りすることがございます
演目・演者は 変更する場合がございます
最新情報は ホームページにてご確認ください

